

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ		平成14年3月14日		横倉 益弘		〒 761-8056 (住所) 香川県高松市上天神町722-1 (電話) 087-815-3300			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人穴吹学園		平成3年4月1日		穴吹 忠嗣		〒 760-0020 (住所) 香川県高松市錦町1丁目22番23号 (電話) 087-823-2266			
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
医療	医療専門課程	理学療法学科		平成17(2005)年度	-	平成26(2014)年度			
学科の目的		理学療法士における基本的な問題解決能力を身につけた人材を養成する							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)		実力と情熱を備えた理学療法士の育成を目指した教育プログラム(理学療法士、中退率 8.7%)							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技	
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	
		102 単位		63 単位	5 単位	22 単位	0 単位	12 単位	
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)					
120 人	86 人	0 人		0 %					
就職等の状況	■卒業者数(C)		30		人				
	■就職希望者数(D)		30		人				
	■就職者数(E)		28		人				
	■地元就職者数(F)		25		人				
	■就職率(E/D)		93		%				
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		89		%				
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		93		%				
	■進学者数		0		人				
	■その他								
	(令和 5 年度卒業者にに関する令和6年5月1日時点の情報)								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:		有						
	※有の場合、例えば以下について任意記載								
	評価団体: 一般社団法人リハビリテーション教育評価機構		受審年月: 43891		評価結果を掲載したホームページURL		http://jcore.or.jp/certification.html		
当該学科のホームページURL	http://www.anabuki-college.net/ark/								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)								
	総授業時数				単位時間				
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				単位時間				
	うち企業等と連携した演習の授業時数				単位時間				
	うち必修授業時数				単位時間				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				単位時間				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				単位時間				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				単位時間				
	(B: 単位数による算定)								
	総授業時数				102 単位				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				22 単位				
	うち企業等と連携した演習の授業時数				0 単位				
うち必修授業時数				102 単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				22 単位					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				0 単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				21 単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者				(専修学校設置基準第41条第1項第1号) 6 人				
	② 学士の学位を有する者等				(専修学校設置基準第41条第1項第2号) 1 人				
	③ 高等学校教諭等経験者				(専修学校設置基準第41条第1項第3号) 0 人				
	④ 修士の学位又は専門職学位				(専修学校設置基準第41条第1項第4号) 2 人				
	⑤ その他				(専修学校設置基準第41条第1項第5号) 0 人				
	計				9 人				
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				9 人				

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ・教育課程編成委員会の各委員からの意見等を参考に現行のカリキュラムや教授方法及び内容を見直し企業が必要とする人材育成を行う。
- ・挨拶やコミュニケーションスキルという基本的な人格を備えた医療人を育成する。
- ・対象者の病態像をもとに臨床思考し問題点を導き出すとともに適切な作業療法が提供できる人材育成を行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

カリキュラム編成・授業科目の内容・方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設置し、業界団体や企業等から意見・要望を伺う。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年5月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
松本 義人	医療法人社団 西高松脳外科・内科クリニック 理事長	令和6年4月1日～令和7年3月 31日(1年間)	③
藤井 保貴	一般社団法人 香川県理学療法士会 副会長	令和6年4月1日～令和7年3月 31日(1年間)	①
田岡 知代	医療法人社団新進会 おさか脳神経外科病院 リハビリテーション室長	令和6年4月1日～令和7年3月 31日(1年間)	③
横倉 益弘	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ 校 長	令和6年4月1日～令和7年3月 31日(1年間)	—
中内 英樹	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ 副 校長	令和6年4月1日～令和7年3月 31日(1年間)	—
植野 英一	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ 教 務部長	令和6年4月1日～令和7年3月 31日(1年間)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(8月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年8月23日 19:00～19:50

第2回 令和7年3月予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

①臨床実習の取り組み

- ・実習前後におけるOSCE(客観的臨床能力試験)を評価実習でも採用した。
- ・指導方法が変わり、現場での学生指導が減っている。
⇒実習後のフォローを学校で実施願いたい。⇒学会形式で担当ケースの症例発表を実施。

②国家試験の合格率アップ

- ・1、2年生への対応
「国試合格ゼミ」では、基礎医学を中心とし、国家試験問題の活用や補習により国家試験への意識づけを実施
- ・3年生の対応
毎月1回以上の国家試験対策委員会開催。
臨床実習期間はスマホアプリを活用し自己学習を実施。
模擬試験結果について、全体における自身の位置を可視化して目標設定する。同時に保護者とも連携する。

③退学者を出さない取り組み

- ・心理士、臨床心理士によるカウンセリングや教員によるカウンセリング
- ・毎月の学科会議で情報共有し対策の話し合い
- ・学習面のサポート

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ・各実習目標・目的を理解し臨床実習指導者の指導のもとに作業療法士としての資質を高める。
- ・実習施設と連携し個々の学生の問題点を的確に捉え個別的な対応を行う。
- ・リスク管理や医療事故防止への安全対策、業務管理を体験し医療人として作業療法士として業務理解につなげる。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

- ・1年次での見学実習（5日間）
- ・2年次での評価実習Ⅰ（10日間）、評価実習Ⅱ（10日間）
- ・3年次での総合臨床実習Ⅰ（40日間）、総合臨床実習Ⅱ（40日間）

①4月に臨床実習指導予定者を招いて臨床実習指導者会議をオンラインにて開催。

より多くの方が参加できるよう開催日を2日とし、どちらか都合の良い日に参加いただいた。

会議は学校作成の「臨床実習教育の手引き」を基に各実習における目的、到達目標、課題等について説明と協議を行う。また、前年度の臨床実習における課題などを教員と実習施設側で共有する。

②各実習前の1週間を実習オリエンテーションと位置付けて、上記会議での指摘事項を踏まえ、心構えや実習目標、課題作成技術習得に向けた授業を実施。

総合臨床実習前後では、OSCE（客観的臨床能力試験）を実施して基本的な臨床技能検査のスキルを高める指導を実施して臨地実習先へ送り出している。

③各実習において担任等が電話にて実習状況を確認し、必要に応じて1回以上訪問し学生の実習状況の把握と助言指導を行う。

④実習終了後の1週間を実習報告会と位置づけ、実習の振り返り、学生間の情報共有、担任との個別面談で再確認を行う。

⑤学生の学修成果の評価は、実習指導者からの成績評価と上記②④の内容をもって行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
見学実習	臨床現場の中で診療補助体験や対象者への問診、評価体験等を通じて、専門家としての適切な振る舞いや対応、実践的コミュニケーション能力を習得することである。また、理学療法士としてのあるべき姿を感じ、模倣、実践、振り返りの中でその修得方法を学んで行く。	高松市立みんなの病院 香川医療生活協同組合 高松協同病院 日本赤十字社 高松赤十字病院 高松画像診断クリニック 医療法人社団 藤井外科胃腸科・整形外科 (30施設)
評価実習Ⅰ	対象者に関する情報収集や問診から、その抱える問題、ディマンド、ニーズを把握すると共に、検査測定によって得られたデータの統合作業を臨床実習指導者の指導の下で繰り返し行い、認知的スキル（情報処理過程）を学ぶ。また、この過程を通じて受動的学習から能動的学習へとシフトさせることも学んで行く。評価を通して得られた対象者のデータを学生自身が指導者と何度もディスカッションを重ねながら処理し、認知的スキルを高める。また、この過程を通じて、学生は認知領域スキルを想起レベルから解釈レベルへ、精神運動領域スキルを模倣レベルからコントロールレベルへ引き上げる学習方法を学ぶ。	香川県立中央病院 医療法人社団 東高松クリニック 香川医療生活協同組合 高松協同病院 高松画像診断クリニック 医療法人社団聖心会 阪本病院 (28施設)
評価実習Ⅱ	医療法人和光会 前田病院 高松市立みんなの病院 香川医療生活協同組合 高松協同病院 医療法人社団研宣会 広瀬病院 医療法人社団聖心会 阪本病院 (29施設)	
総合臨床実習Ⅰ	評価実習で経験した認知的スキルのトレーニングをさらに積み重ね、解決策を講じる意思決定過程を指導者とのディスカッションの中からつかみ、知識の構造化を学ぶ。また、この過程を通じて、学生は認知領域スキルを解釈レベルから問題解決レベルへと進める。	医療法人社団つばさ 楓の森整形外科 香川医療生活協同組合 高松協同病院 医療法人社団研宣会 広瀬病院 高松画像診断クリニック 香川県厚生農業協同組合連合会滝宮総合病院 (32施設)
総合臨床実習Ⅱ	複雑な障害像を呈しない一般的な疾患に対し、実習指導者からのある程度の助言・指導のもとに理学療法が行える実践的スキルを学び、この過程を通じて、学生自らが能動的に動き、対象者の抱える問題を理学療法という手段で解決できること学ぶ。	坂出市立病院 医療法人社団つばさ 楓の森整形外科 医療法人社団 東高松クリニック 香川医療生活協同組合 高松協同病院 香川大学医学部附属病院 (33施設)

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 ①本学において企画し実施する研修は、受講必須研修と任意選択研修に分ける。 ②受講必須研修は、授業及び学生に対する指導力等の修得・向上や学校運営・教育マネジメント等に関する専門能力の修得・向上を目的として、本学の教員として必ず修得しなければならない。 ③任意選択研修は、指導力のさらなる向上や、より高度な職務を遂行するために必要な知識を付与することを目的とする。その内容は毎年、見直しを行う 教員は毎年、最低1つは受講しなければならない。 ④本学は、教員に必須研修、任意選択研修に加え、専攻分野における実務に関する知識・技術・技能の修得・向上を目的として、公益社団法人日本理学療法士協会、全国リハビリテーション学校協会教育研究大会・教員研修会、一般社団法人 職業教育・キャリア教育財団等の主催する研修や、専門団体等への研修を命ずることがある。 ⑤教員は、年間15時間以上の研修を受講しなければならない。 ⑥管理職は、教員に年間15時間以上の研修を受講させなければならない。		
(2)研修等の実績		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	第29回香川県理学療法士学会	連携企業等: 香川県理学療法士会
期間:	令和6年3月3日(日)	対象: 理学療法士
内容	テーマ:『進取果敢(しんしゅかかん)』理学療法士の未来を探究する	
研修名:	バイオメカニクス勉強会	連携企業等: エンジョイゴルフ
期間:	令和6年4月12日(金)・13日(土)	対象: 理学療法士ほか
内容	バイオメカニクスの理解とスイングカタリストのスイング改善への具体的活用方法	
研修名:	第30回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	連携企業等: 心臓リハビリテーション学会
期間:	令和6年7月13日(土)・14日(日)	対象: 理学療法士ほか
内容	テーマ:サイエンスしていく心臓リハビリテーション	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	第3回 理学療法士作業療法士専任教員養成講習会	連携企業等: 全国リハビリテーション学校協会
期間:	令和5年12月4日(月)～令和6年2月21日(水)	対象: 養成校教員ほか
内容	理学療法学科教員養成	
研修名:	香川県探究部会研修	連携企業等: 香川県高等学校教育研究会
期間:	令和6年6月28日(金)	対象: 教員
内容	非認知能力の育成と総合的な探究の時間 ―指導と評価のあり方―	
研修名:	非認知能力養成研修	連携企業等: 学校法人穴吹学園
期間:	令和6年7月16日(火)	対象: 教員
内容	非認知能力養成	

(3) 研修等の計画		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	第22回日本神経理学療法学会学術大会	連携企業等: 日本神経理学療法学会
期間:	令和6年9月28日(土)・29日(日)	対象: 理学療法士
内容	テーマ: 「創始」次代への超克	
研修名:	第83回 日本公衆衛生学会総会	連携企業等: 一般社団法人 日本公衆衛生学会
期間:	令和6年10月29日(火)～31日(木)	対象: 医師、理学療法士ほか
内容	テーマ: とともにいきる 協創を拓く対話	
研修名:	第52回 四国理学療法士学会	連携企業等: 四国理学療法士学会
期間:	令和6年11月23日(土)・24日(日)	対象: 理学療法士
内容	テーマ: 理学療法の新時代	
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	コンプライアンス研修	連携企業等: 学校法人穴吹学園
期間:	令和6年9月9日(月)	対象: 教職員
内容	パワーハラスメント防止	
研修名:	スポーツ科学トレーナー養成研修	連携企業等: アローズラボ
期間:	令和7年1月頃	対象: 教員
内容	スポーツ科学トレーナー養成	
研修名:	第38回教育研究大会・教員研修会	連携企業等: 全国リハビリテーション学校協会
期間:	令和7年8月頃	対象: 教員
内容	教員の資質向上に関する演題発表と講演	

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

- ・関係者ならではの視点で具体的かつ実践的な評価を受ける。
- ・自己点検評価の適正化、妥当性を客観的に評価する。
- ・結果として職業に必要な実践的かつ専門的な能力がより修得できる改善計画をし、PDCAサイクルを繰り返し続ける。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念、目的、人材育成像は定められていますか
(2)学校運営	運営方針は教育理念等に沿ったものになっていますか
(3)教育活動	教育理念、育成人材像に沿った教育課程の編成・実施方針が策定さ
(4)学修成果	資格・免許取得率の向上が図られていますか
(5)学生支援	退学率の低減が図られていますか
(6)教育環境	教育上、必要、かつ、十分な種類・数の施設・設備が整備されています
(7)学生の受入れ募集	学生募集活動を積極的、かつ、効果的に行っていますか
(8)財務	学校及び設置者(法人)の収支、財政基盤は安定していますか
(9)法令等の遵守	専修学校設置基準・各種学校規程及び関係法令の遵守と、適正な運
(10)社会貢献・地域貢献	学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っています
(11)国際交流	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

①「自己評価報告書」の実施できなかった項目について

- ・5- 10- b(卒業年度だけでなく、卒業後一定期間後の勤務先等就業状況を調査・把握していますか)については、卒業年度のみ卒業生の動向を把握しているが一定期間における就業状況は把握できていない。
⇒就職キャリアセンターと協同して卒業後3年間の就業継続状況を調査し把握する。

②教育活動について

- ・学期末に実施している学生による授業評価結果をもとに習熟度が高まる授業の工夫を引き続き実施する。

③学習支援について

- ・学業不振に対して、学習面だけでなく、心理・精神面や交友関係にも目を向けて定期的な担任との面談やカウンセリング、学科内での情報共有を行ってサポートする。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
松本 義人	医療法人社団 西高松脳外科・内科クリニック 理事長	令和6年4月1日～令和7年3月 31日(1年間)	企業等委員
藤井 保貴	一般社団法人 香川県理学療法士会 副会長	令和6年4月1日～令和7年3月 31日(1年間)	職能団体
樋本 英司	一般社団法人 香川県作業療法士会 理事	令和6年4月1日～令和7年3月 31日(1年間)	職能団体
田岡 知代	医療法人社団新進会 おさか脳神経外科病院 リハビリテーション室長	令和6年4月1日～令和7年3月 31日(1年間)	企業等委員
中川 真人	介護老人保健施設 白寿の杜 リハビリ室長	令和6年4月1日～令和7年3月 31日(1年間)	企業等委員
宮滝 寛己	香川県立香川中央高等学校 校長	令和6年5月16日～令和7年3 月31日	教育機関
上杉 敬治	香川県立丸亀城西高等学校 校長	令和6年5月30日～令和7年3 月31日	教育機関
亀山 健太	穴吹リハビリテーションカレッジ同窓会 会長	令和6年4月1日～令和7年3月 31日(1年間)	卒業生
松下 昌明	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ 保護者会 支部長	令和6年6月15日～令和7年3 月31日(1年間)	保護者会

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <http://www.anabuki-college.net/ark/>

公表時期: 令和6年8月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

■継続的な教育の質の向上を図ることを目的とし、情報提供の基本方針を以下に定める

- ・教育に関わる情報について原則、公開する。
- ・定期的に更新し、最新の情報を提供する。
- ・情報の提供に関してはインターネットでの提供を基本とする。
- ・統計的な情報については算定方法など、根拠となる情報も同時に提供する。
- ・個人情報の取り扱いに留意し、個人が特定できない情報提供とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校名、所在地、学校の沿革、歴史
(2)各学科等の教育	カリキュラム、時間割、年間の授業計画
(3)教職員	教職員数、教職員の組織、教員の専門性
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み状況、実習・実技等への取り組み状況
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事への取り組み状況、課外活動
(6)学生の生活支援	学生支援の取り組み状況
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金の取り扱い
(8)学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支報告書、監査報告書
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価結果
(10)国際連携の状況	—
(11)その他	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <http://www.anabuki-college.net/ark/>

公表時期: 令和6年8月31日

授業科目等の概要

#REF!	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携		
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任			
1	○			心理学	心理学の基礎的知識に触れることを通して、人間理解の方法を深める。また、心に関する様々な問題に対し、多角的な視点からの思考を学ぶ	1前	15	2	○			○			○			
2	○			情報科学	「情報」の意味および価値を理解すると共に、一般情報のデジタル化、さらにデジタル化された情報をIT（Information Technology）を使って有効な形態に加工し活用する情報活用技術全般の基礎を学ぶ	1前	30	1		○		○				○		
3	○			生化学	生体内での生命現象として、タンパク質や遺伝子等がどのように制御されているのかについて学ぶ。また、糖質、脂質やビタミンなどの分子の働きについても学ぶ	1前	15	2	○			○				○		
4	○			統計学	基本統計量の計算ができるよう、確率変数、各種分布・統計量・検定の意味を理解し、演習を行う。	2前	15	2	○			○					○	
5	○			人間工学	病床環境の快適性の追求、早期社会復帰のための施設・設備の検討、作業環境や安全性について様々な知識を学ぶ。また問題意識を持つと共にその解決方法を考える力を養う	1後	30	1	○			○			○			
6	○			物理学	身近な現象から、力と運動、圧力、重力下の力の働き、重心、運動の法則について学ぶ	1前	30	1	○			○			○			
7	○			コミュニケーション論	PTとして、実習に出るまで、また臨床で働くまでに必ず身に付けるべきコミュニケーションスキルや社会人としてのマナーなどを修得する。	1前	30	1		○		○			○			
8	○			英語	医学英語・リハビリテーション基礎英語を学習し、医学英語・リハビリテーション基礎英語の適切な使用方法について学ぶ	2前	15	2	○			○					○	
9	○			人間育成学Ⅰ	医療人としての人間性、資質を培う 問題解決のための自己学習方法の手続きを学ぶ 文献をまとめることで、文章の書き方や表出方法を学ぶ	1前	30	1		○		○			○			
10	○			人間育成学Ⅱ	医療人としての人間性、資質を培う 問題解決のための自己学習方法の手続きを学ぶ 文献をまとめることで、文章の書き方や表出方法を学ぶ	2前	30	1		○		○			○			

11	○		解剖運動学Ⅰ	四肢及び体幹の機能解剖について理解し、運動療法や動作分析に必要な基本的事項を学習する。	1 前	30	2	○			○		○		
12	○		解剖運動学Ⅱ	体表面に骨や筋の位置や走行を投影し、触察できるようになる。	1 前	30	2			○	○		○		
13	○		解剖生理学Ⅰ	神経系（中枢神経系および末梢神経系）の構造（つくり）および機能（はたらき）について教授する。	1 前	30	3	○			○		○		
14	○		解剖生理学Ⅱ	内部障害に対し理学療法を行うための基礎知識を習得する。	1 前	30	3	○			○		○		
15	○		解剖学実習	人体を構成する器官は、立体的に体格を構築すると共に、体腔内に立体的に納まっている。立体的な認識を得るためには、丁寧な予習に裏付けられた知識と実習室における系統的な観察が重要であり、構造と機能の相関理解に努めることで目的は達成できる。同時に篤志献体された方々のご厚意に触れ、医療人としてあるべき姿を心に刻む。	1 後	30	1			○	○	○	○		
16	○		人間発達学	胎児期から老年期に至るまでの、身体的な成長・発達および精神的な発達とその特徴を理解し、発達、成長に関係する因子と発達理論および評価法の概略を学ぶ	1 後	30	1	○			○		○		
17	○		臨床心理学	臨床心理分野の疾患とその治療法を理解し、自分たちの職種で出来る各疾患の治療法について学ぶ	1 後	30	1	○			○			○	
18	○		一般臨床医学	医学一般について幅広く知識を深めていく学問であり、代表的な疾患の概要や症状、治療などについて習得する。	1 後	30	2	○			○		○		
19	○		リハビリテーション 診断学	画像の種類や特徴などについて学ぶ。画像から得られる情報に気付くトレーニングを行う。	2 前	30	2	○			○		○		
20	○		リハビリテーション 整形外科学	整形外科の一般的疾患について病態と治療について必要な知識を習得する。	1 後	30	2	○			○		○		
21	○		リハビリテーション 神経学	リハビリテーションの対象となる脳血管障害、神経筋難病、末梢神経障害等の発症機序や治療法および理学療法プログラムを教授する。	1 後	30	2	○			○		○		
22	○		リハビリテーション 内科学	リハビリテーションに関わりの深い内科系疾患について、疾患概念や病態を中心に基本的な知識を習得する。	1 後	30	2	○			○		○		

23	○		精神医学	精神医学の基礎について学び、国家試験に準拠した内容を十分に理解し、理学療法業務に活かす。	1 後	30	1	○			○		○		
24	○		小児科学	子供と大人の違いや小児疾患について理解を深め、疾患を持った子供の成長に必要なことを学ぶ。	1 後	30	1	○			○		○		
25	○		老年学	身体面・精神面・社会面・生活面の観点から高齢者の理解を深め、老化にともなう生じる障害や病態について学び、高齢障害者に対する作業療法士の役割を考える	2 前	30	1	○			○		○		
26	○		リハビリテーション医学概論	医学およびリハビリテーション全般について理解し、医療に従事する専門職としての資質を養う。また、リハビリテーション医療の状況把握と今後の発展性について学ぶ。	1 前	15	2	○			○		○		
27	○		理学療法概論	理学療法の歴史と発展の背景、現状を把握し、今後の発展性について学ぶ。また、理学療法士としての使命と倫理を法的根拠を基に理解し、理学療法士に求められる資質を学ぶ。	1 後	30	1	○			○		○		
28	○		保健医療福祉論	社会保障制度、保険制度、医療制度、福祉制度の概要と各々の問題点を諸外国と対比しながら学ぶ。	2 前	30	1	○			○		○		
29	○		基礎理学療法学Ⅰ	骨、関節、軟部組織の構造を学び、それらの治癒過程とバイオメカニクス の総論を学ぶ。	2 前	30	1	○			○		○		
30	○		基礎理学療法学Ⅱ	皮膚、靱帯、腱、筋、神経組織の構造とバイオメカニクスについて理解を深め、それらの組織損傷後の治癒過程について学ぶ	2 前	30	1	○			○		○		
31	○		基礎理学療法学Ⅲ	内部障害の病態を理解するために必要な代謝・呼吸・循環作用についての生理学的基礎知識を学ぶ	2 前	30	1	○			○		○		
32	○		基礎理学療法学Ⅳ	疼痛の発生機序と生体内での調整、コントロールについて学ぶ。	2 前	30	1	○			○		○		
33	○		日常生活活動学	日常生活活動の概念と範囲、意義を学ぶ。姿勢や動き、動作の観察、ADL指導や環境整備、機器の選定についても学ぶ。	2 前	30	1	○			○		○		
34	○		理学療法研究論	理学療法士に必要な研究とその方法論について学び、Excelを使った基本的な統計処理とPower Pointを使ったプレゼンテーション、さらにケースレポートの書き方までを学ぶ	2 後	30	1	○			○		○		
35	○		理学療法管理学	リハビリテーション部門の業務管理の基本とキャリア形成について学ぶ。	3 前	15	2	○			○		○		

36	○		理学療法評価学Ⅰ	理学療法領域で実施される理学療法評価の意義と目的、各種検査測定法について学び、形態測定、関節可動域検査手技を学ぶ	1後	30	2			○	○	○						
37	○		理学療法評価学Ⅱ	理学療法領域で実施される理学療法評価の意義と目的、各種検査測定法について学び、徒手筋力検査法、バランステストなどを学ぶ。	2前	30	2			○	○	○						
38	○		理学療法評価学Ⅲ	神経系の疾患に対する評価の概要を学ぶ。姿勢反射、片麻痺機能検査、脳神経検査、高次脳機能検査などの実技を行う。	2後	30	1			○	○	○						
39	○		動作分析セミナー	基本動作を運動学的・運動力学的・筋電学的手法を用いて分析するために必要な理論と方法論について学ぶ	2後	30	1	○			○	○						
40	○		運動療法学	運動療法の概要と運動療法の対象となる主要な障害の規定要素と仕組み、評価理論とその方法について学ぶ	2前	30	3			○	○	○						
41	○		物理療法学	温熱療法、水療法、寒冷療法、光線療法などで用いる物理的エネルギーが生体にどのような生理的機序で影響を与えるか理解し、確認実験を通してその選択基準と禁忌事項について学ぶ	2後	30	1		○		○	○						
42	○		義肢装具学Ⅰ	切断術と義足の種類、義足のパーツ機能及びソケット適合とアライメント調整方法を理解し、切断者に対する理学療法について学ぶ	2前	30	1	○			○	○						
43	○		義肢装具学Ⅱ	脳卒中、下肢骨折、体幹機能障害、代表的な小児疾患に対する下肢・体幹装具療法の目的と装具処方の考え方を学ぶ	2後	30	1	○			○	○						
44	○		整形外科疾患の理学療法Ⅰ	股関節疾患に対する整形外科的治療を理解し、治療に合致したリスク管理が行える知識と理学療法について学ぶ	2後	30	2	○			○	○						
45	○		整形外科疾患の理学療法Ⅱ	人工関節、膝関節疾患に対する整形外科的治療を理解し、治療に合致したリスク管理が行える知識と理学療法について学ぶ	2後	30	2	○			○	○						
46	○		整形外科疾患の理学療法Ⅲ	脊椎・脊髄疾患に対する整形外科的治療を理解し、治療に合致したリスク管理が行える知識と理学療法について学ぶ	2後	30	1	○			○	○						
47	○		中枢神経疾患の理学療法Ⅰ	脳血管障害者に対する病期別リハビリテーションに対する基本的な理学療法と脊髄損傷のリハビリテーションについて学ぶ	2後	30	2	○			○	○						
48	○		中枢神経疾患の理学療法Ⅱ	神経筋疾患の疾患概要とリハビリテーション治療の知識を深め、代表的神経筋疾患に対する基本的理学療法評価及び理学療法について学ぶ	2後	30	1	○			○	○						

49	○		内部障害の理学療法Ⅰ	呼吸器疾患の病態に合致したリスク管理知識を深め、呼吸機能評価に基づいた呼吸・排痰療法、運動処方といった一連の肺理学療法を学ぶ	2後	30	1	○			○		○		
50	○		内部障害の理学療法Ⅱ	虚血性心疾患の病態と心電図所見についての知識を深め、虚血性心疾患の病態に合致したリハビリテーションについて学ぶ	2後	30	1	○			○		○		
51	○		内部障害の理学療法Ⅲ	生理学的知識を基盤とし有効とされる運動療法の条件を理解し、メタボリックシンドロームの予防・治療に関する基本的技術と運動処方について学ぶ	2後	30	1	○			○		○		
52	○		発達障害の理学療法	小児期の正常発達と発達障害の特徴を理解し、発達障害児に対する理学療法について学ぶ	2後	30	1	○			○		○		
53	○		ペーパーペーシェントセミナー	中枢神経疾患、整形外科疾患の症例を提示し、その病態の理解と評価結果の解釈、治療計画の立案と手技練習を通してクリニカルリリーズニングを学ぶ	3前	30	2			○	○		○		
54	○		地域理学療法学	地域リハビリテーションの思想を理解し、地域における理学療法の知識、技術について学ぶと共に、理学療法士の職域を模索する	2後	30	1	○			○		○		
55	○		生活環境学Ⅰ	住環境整備に必要な知識と生活行為別の福祉用具の活用方法、住環境整備の共通基本技術を学ぶ	2前	30	1	○			○		○		
56	○		生活環境学Ⅱ	疾患別の基本的な住環境プランニングの理解を深め、模擬患者の状況に応じた環境提案方法を学ぶ	2後	30	1	○			○		○		
57	○		見学実習	臨床現場の中で診療補助体験や対象者への問診、評価体験等を通じて、専門家としての適切な振る舞いや対応、実践的コミュニケーション能力を習得し、理学療法士としてのあるべき姿を感じ、模倣、実践、振り返りの中でその修得方法を学ぶ	1後	45	1			○		○			○
58	○		評価実習Ⅰ	対象者に関する情報収集や問診から、その抱える問題、ディマンド、ニーズを把握すると共に、検査測定によって得られたデータの統合作業を臨床実習指導者の指導の下で繰り返し行い、認知的スキル（情報処理過程）を高め、この過程を通じて受動的学習から能動的学習へとシフトさせることを学ぶ	2前	45	2			○		○			○

59	○		評価実習Ⅱ	評価を通して得られた対象者のデータを学生自身が指導者と何度もディスカッションを重ねながら処理し認知的スキルを高め、この過程を通じて認知領域スキルを想起レベルから解釈レベルへ、精神運動領域スキルを模倣レベルからコントロールレベルへ引き上げる学習方法を学ぶ	2 後	45	2			○	○	○
60	○		総合臨床実習Ⅰ	評価実習で経験した認知的スキルのトレーニングをさらに積み重ね、解決策を講じる意思決定過程を指導者とのディスカッションの中からつかみ、知識の構造化を行い、この過程を通じて、認知領域スキルを解釈レベルから問題解決レベルへと進める学習方法を学ぶ	3 前	45	8			○	○	○
61	○		総合臨床実習Ⅱ	複雑な障害像を呈しない一般的な疾患に対し、実習指導者からのある程度の助言・指導のもとに理学療法が行える実践的スキル経験を積み重ね、この過程を通じて、自らが能動的に動き、対象者の抱える問題を理学療法という手段で解決できること学ぶ	3 後	45	8			○	○	○
合計					61 科目	102 単位（単位時間）						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 取得単位102単位以上		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 理学療法士養成校指定条件		1 学期の授業期間	16 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ		平成14年3月14日		横倉 益弘		〒 761-8056 (住所) 香川県高松市上天神町722-1 (電話) 087-815-3300			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人穴吹学園		平成3年4月1日		穴吹 忠嗣		〒 760-0020 (住所) 香川県高松市錦町1丁目22番23号 (電話) 087-823-2266			
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
医療	医療専門課程	作業療法学科		平成17(2005)年度	-	平成26(2014)年度			
学科の目的		作業療法士における基本的な問題解決能力を身につけた人材を養成する							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)		対象者の思いを引き出し実現できる作業療法士の育成を目指した教育プログラム(作業療法士、中退率 4.2%)							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技	
3	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	
		104 単位		66 単位	7 単位	29 単位	0 単位	2 単位	
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)					
120 人	43 人	0 人		0 %					
就職等の状況	■卒業者数(C) : 12 人								
	■就職希望者数(D) : 12 人								
	■就職者数(E) : 12 人								
	■地元就職者数(F) : 12 人								
	■就職率(E/D) : 100 %								
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 100 %								
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 100 %								
	■進学者数 : 0 人								
	■その他								
	(令和 5 年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)								
■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) 病院、介護保険事業所等									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 一般社団法人リハビリテーション教育評価機構 受審年月: 43891 評価結果を掲載したホームページURL: http://jcore.or.jp/certification.html								
当該学科のホームページURL	http://www.anabuki-college.net/ark/								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)								
	総授業時数				単位時間				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				単位時間				
	うち企業等と連携した演習の授業時数				単位時間				
	うち必修授業時数				単位時間				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				単位時間				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				単位時間				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				単位時間				
	(B: 単位数による算定)								
	総授業時数				108 単位				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				29 単位				
	うち企業等と連携した演習の授業時数				0 単位				
	うち必修授業時数				108 単位				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				29 単位				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				0 単位				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				29 単位				
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)				1 人				
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)				4 人				
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0 人				
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)				1 人				
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)				0 人				
	計				6 人				
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				6 人				

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ・教育課程編成委員会の各委員からの意見等を参考に現行のカリキュラムや教授方法及び内容を見直し企業が必要とする人材育成を行う。
- ・挨拶やコミュニケーションスキルという基本的人格を備えた医療人を育成する。
- ・対象者の病態像をもとに臨床思考し問題点を導き出すとともに適切な作業療法が提供できる人材育成を行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

カリキュラム編成・授業科目の内容・方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設置し、業界団体や企業等から意見・要望を伺う。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年5月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
松本 義人	医療法人社団 西高松脳外科・内科クリニック 理事長	令和6年4月1日～令和7年3月 31日(1年間)	③
樋本 英司	一般社団法人 香川県作業療法士会 理事	令和6年4月1日～令和7年3月 31日(1年間)	①
中川 真人	介護老人保健施設 白寿の杜 リハビリ室長	令和6年4月1日～令和7年3月 31日(1年間)	③
横倉 益弘	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ 校 長	令和6年4月1日～令和7年3月 31日(1年間)	—
中内 英樹	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ 副 校長	令和6年4月1日～令和7年3月 31日(1年間)	—
植野 英一	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ 教 務部長	令和6年4月1日～令和7年3月 31日(1年間)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員
(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(8月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年8月23日 20:00～20:50

第2回 令和7年3月予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

①国家試験合格率100%の継続

・1、2年生への対応

「国試合格ゼミ」では、基礎医学を中心とし、国家試験問題の活用や補習により国家試験への意識づけを実施

・3年生の対応

毎月1回以上の国家試験対策委員会開催。

臨床実習期間はスマホアプリを活用し自己学習を実施。

⇒実習指導者にも伝えるとき一緒に活用することでコミュニケーションツールの一つとなる。

模擬試験結果について、全体における自身の位置を可視化して目標設定する。同時に保護者とも連携する。

②退学者を出さない取り組み

・心理士、臨床心理士によるカウンセリングや教員によるカウンセリング

・毎月の学科会議で情報共有し対策の話し合い

・学習面のサポート⇒学生一人一人にあった計画と一緒に立てる。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ・各実習目標・目的を理解し臨床実習指導者の指導のもとに作業療法士としての資質を高める。
- ・実習施設と連携し個々の学生の問題点を的確に捉え個別的な対応を行う。
- ・リスク管理や医療事故防止への安全対策、業務管理を体験し医療人として作業療法士として業務理解につなげる。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

- ・1年次での見学実習Ⅰ（5日間）、見学実習Ⅱ（5日間）
- ・2年次での評価実習（15日間）
- ・3年次での総合臨床実習Ⅰ（60日間）、総合臨床実習Ⅱ（60日間）※令和4年度入学生
- ①4月に臨床実習指導予定者を招いて臨床実習指導者会議をオンラインにて開催。
より多くの方が参加できるよう開催日を2日とし、いずれか都合の良い日に参加いただいた。
会議は学校作成の「実習の手引き」を基に各実習における目的、到達目標、課題等について説明と協議を行う。
また、前年度の臨床実習における課題などを教員と実習施設側で共有する。
- ②各実習前の1週間を実習オリエンテーションと位置付けて、上記会議での指摘事項を踏まえ、心構えや実習目標、課題作成技術習得に向けた授業を実施。
総合臨床実習前後では、OSCE（客観的臨床能力試験）を実施して基本的な臨床技能検査のスキルを高める指導を実施して臨地実習先へ送り出している。
- ③各実習において担任等が電話にて実習状況を確認し、必要に応じて1回以上訪問し学生の実習状況の把握と助言指導を行う。
- ④実習終了後の1週間を実習報告会と位置づけ、実習の振り返り、学生間の情報共有、担任との個別面談で再確認を行う。
- ⑤学生の学修成果の評価は、実習指導者からの成績評価と上記②④の内容をもって行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
見学実習Ⅰ	1学年に行われる臨床場面での実習で専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ（以下、当校）の定める各実習施設において、将来、学生が作業療法士となるうえでその資質・適性の有無を判断する機会を持つために作業療法業務の部分的体験及び見学を行う。 見学実習では、Ⅰ・Ⅱのどちらかの期間で、通所リハビリ施設または訪問リハビリ施設での実習とする。	香川医療生活協同組合 高松協同病院 創心会 リハビリ倶楽部高松中央 医療法人春風会 榎村病院 一般財団法人 三宅医学研究所附属 三宅リハビリテーション病院（18施設）
見学実習Ⅱ		独立行政法人地域医療機能推進機構 リつりん病院 創心会 リハビリ倶楽部高松中央 医療法人 西山記念会 MIRAI病院 医療法人社団 彰志会 介護老人保健施設 ポタラの森（11施設）
評価実習	2学年に行われる臨床現場での実習で対象者の心身諸機能・日常生活等の生活面・対人交流等の社会面を把握する評価の実施及び作業療法士の役割と機能を部分的に実践する実習であり、評価結果の統合と解釈を行い、治療計画が立案できることを目指す。	医療法人社団 光風会 三光病院 香川医療生活協同組合 高松平和病院 社会福祉法人恩賜財団済生会支部 香川県済生会病院 医療法人財団 博仁会 キナシ大林病院 （14施設）
総合臨床実習Ⅰ	3学年に行われる臨床場面での実習であり、当校で学習した知識と技術・技能および態度を臨床における作業療法体験により統合する課程である。学生は臨床実習指導者の指導のもとに、対象者の全体像の把握、作業療法計画、治療・指導・援助などを通して、作業療法士としての知識と技術・技能および態度を身に付け、保健・医療・福祉に関わる専門職としての認識を高めるものである。	香川大学医学部附属病院 香川医療生活協同組合 高松協同病院 医療法人赤心会 赤沢病院 医療法人社団三和会 しおかぜ病院 医療法人社団三愛会 三船病院 （19施設）
総合臨床実習Ⅱ		一般財団法人 三宅医学研究所附属 三宅リハビリテーション病院 医療法人赤心会 赤沢病院 医療法人社団三和会 しおかぜ病院 医療法人社団三愛会 三船病院 香川県厚生農業協同組合連合会 屋島総合病院（21施設）

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記		
①本学において企画し実施する研修は、受講必須研修と任意選択研修に分ける。		
②受講必須研修は、授業及び学生に対する指導力等の修得・向上や学校運営・教育マネジメント等に関する専門能力の修得・向上を目的として、本学の教員として必ず修得しなければならない。		
③任意選択研修は、指導力のさらなる向上や、より高度な職務を遂行するために必要な知識を付与することを目的とする。その内容は毎年、見直しを行う 教員は毎年、最低1つは受講しなければならない。		
④本学は、教員に必須研修、任意選択研修に加え、専攻分野における実務に関する知識・技術・技能の修得・向上を目的として、公益社団法人日本理学療法士協会、全国リハビリテーション学校協会教育研究大会・教員研修会、一般社団法人 職業教育・キャリア教育財団等の主催する研修や、専門団体等への研修を命ずることがある。		
⑤教員は、年間15時間以上の研修を受講しなければならない。		
⑥管理職は、教員に年間15時間以上の研修を受講させなければならない。		
(2)研修等の実績		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	第57回日本作業療法学会	連携企業等: 一般社団法人 日本作業療法士協会
期間:	令和5年11月10 日(金)－11月12日(日)	対象: 作業療法士
内容	「ものごとの仕組みに注目するー作業療法における問題解決の糸口としてー」	
研修名:	第24回日本抗加齢医学会総会	連携企業等: 一般社団法人日本抗加齢医学会
期間:	令和6年5月31日(金)～6月2日(日)	対象: 医師、医療従事者ほか
内容	テーマ:実学創造 ～老化制御の一新紀元～	
研修名:	第 33 回四国作業療法学会	連携企業等: 四国作業療法士会連絡協議会
期間:	令和6 年 6 月 8 日(土)・9 日(日)	対象: 作業療法士
内容	テーマ:出会力	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	2023年度 教員研修会	連携企業等: 全国リハビリテーション学校協会
期間:	令和5年9月30日(土)	対象: 養成校教員
内容	テーマ:合理的配慮が必要な学生への支援	
研修名:	香川県探究部会研修	連携企業等: 香川県高等学校教育研究会
期間:	令和6年6月28日(金)	対象: 教員
内容	非認知能力の育成と総合的な探究の時間 ―指導と評価のあり方―	
研修名:	非認知能力養成研修	連携企業等: 学校法人穴吹学園
期間:	令和6年7月16日(火)	対象: 教員
内容	非認知能力養成	

(3) 研修等の計画		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名： 第58回日本作業療法学会	連携企業等： 一般社団法人 日本作業療法士協会	
期間： 令和6年11月9日(土)－11月10日(日)	対象： 作業療法士	
内容 テーマ：作業療法の効果を最大化する知識・技術・環境を問う		
研修名： 第26回香川県作業療法学会	連携企業等： 一般社団法人 香川県作業療法士会	
期間： 令和7年1月19日(日)	対象： 作業療法士	
内容 テーマ：Borderless～つながりからひろがりへ～		
研修名： 第25回日本抗加齢医学会総会	連携企業等： 一般社団法人日本抗加齢医学会	
期間： 令和7年6月13日(金)～6月15日(日)	対象： 医師、医療従事者ほか	
内容 テーマ：抗加齢医学4半世紀 頑張ろうぜ！		
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名： コンプライアンス研修	連携企業等： 学校法人穴吹学園	
期間： 令和6年9月9日(月)	対象： 教職員	
内容 パワーハラスメント防止		
研修名： 中級パラスポーツ指導者養成講習会	連携企業等： 一般社団法人 日本作業療法士協会	
期間： 令和6年10月12日(土)～11月24日(日)の4日間	対象： 作業療法士	
内容 日本パラスポーツ協会公認 中級パラスポーツ指導者養成講習		
研修名： 第38回教育研究大会・教員研修会	連携企業等： 全国リハビリテーション学校協会	
期間： 令和7年8月頃	対象： 教員	
内容 教員の資質向上に関する演題発表と講演		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

- ・関係者ならではの視点で具体的かつ実践的な評価を受ける。
- ・自己点検評価の適正化、妥当性を客観的に評価する。
- ・結果として職業に必要な実践的かつ専門的な能力がより修得できる改善計画をし、PDCAサイクルを繰り返し続ける。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念、目的、人材育成像は定められていますか
(2)学校運営	運営方針は教育理念等に沿ったものになっていますか
(3)教育活動	教育理念、育成人材像に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されていますか
(4)学修成果	資格・免許取得率の向上が図られていますか
(5)学生支援	退学率の低減が図られていますか
(6)教育環境	教育上、必要、かつ、十分な種類・数の施設・設備が整備されていますか
(7)学生の受入れ募集	学生募集活動を積極的、かつ、効果的に行っていますか
(8)財務	学校及び設置者(法人)の収支、財政基盤は安定していますか
(9)法令等の遵守	専修学校設置基準・各種学校規程及び関係法令の遵守と、適正な運営がなされていますか
(10)社会貢献・地域貢献	学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っていますか
(11)国際交流	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

①「自己評価報告書」の実施できなかった項目について

- ・5- 10- b(卒業年度だけでなく、卒業後一定期間後の勤務先等就業状況を調査・把握していますか)については、卒業年度のみ卒業生の動向を把握しているが一定期間における就業状況は把握できていない。
⇒就職キャリアセンターと協同して卒業後3年間の就業継続状況を調査し把握する。

②教育活動について

- ・学期末に実施している学生による授業評価結果をもとに習熟度が高まる授業の工夫を引き続き実施する。

③学習支援について

- ・学業不振に対して、学習面だけでなく、心理・精神面や交友関係にも目を向けて定期的な担任との面談やカウンセリング、学科内での情報共有を行ってサポートする。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
松本 義人	医療法人社団 西高松脳外科・内科クリニック 理事長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年間)	企業等委員
藤井 保貴	一般社団法人 香川県理学療法士会 副会長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年間)	職能団体
樋本 英司	一般社団法人 香川県作業療法士会 理事	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年間)	職能団体
田岡 知代	医療法人社団新進会 おさか脳神経外科病院 リハビリテーション室長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年間)	企業等委員
中川 真人	介護老人保健施設 白寿の杜 リハビリ室長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年間)	企業等委員
宮滝 寛己	香川県立香川中央高等学校 校長	令和6年5月16日～令和7年3月31日	教育機関
上杉 敬治	香川県立丸亀城西高等学校 校長	令和6年5月30日～令和7年3月31日	教育機関
亀山 健太	穴吹リハビリテーションカレッジ同窓会 会長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年間)	卒業生
松下 昌明	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ 保護者会 支部長	令和6年6月15日～令和7年3月31日(1年間)	保護者会

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <http://www.anabuki-college.net/ark/>

公表時期: 令和6年8月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

■継続的な教育の質の向上を図ることを目的とし、情報提供の基本方針を以下に定める

- ・教育に関わる情報について原則、公開する。
- ・定期的に更新し、最新の情報を提供する。
- ・情報の提供に関してはインターネットでの提供を基本とする。
- ・統計的な情報については算定方法など、根拠となる情報も同時に提供する。
- ・個人情報の取り扱いに留意し、個人が特定できない情報提供とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校名、所在地、学校の沿革、歴史
(2)各学科等の教育	カリキュラム、時間割、年間の授業計画
(3)教職員	教職員数、教職員の組織、教員の専門性
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み状況、実習・実技等への取り組み状況
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事への取り組み状況、課外活動
(6)学生の生活支援	学生支援の取り組み状況
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金の取り扱い
(8)学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支報告書、監査報告書
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価結果
(10)国際連携の状況	—
(11)その他	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <http://www.anabuki-college.net/ark/>

公表時期: 令和6年8月31日

授業科目等の概要

#REF!	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			心理学	心理学の基礎的知識に触れることを通して、人間理解の方法を深める。また、心に関する様々な問題に対し、多角的な視点からの思考を学ぶ	1前	15	2	○			○		○		
2	○			情報科学	「情報」の意味および価値を理解すると共に、一般情報のデジタル化、さらにデジタル化された情報をIT（Information Technology）を使って有効な形態に加工し活用する情報活用技術全般の基礎を学ぶ	1前	30	1		○		○			○	
3	○			論理学	授業や課題レポート作成に必要な文章読解力、文章作成能力を養う	1前	15	2	○			○		○		
4	○			社会学	社会の成り立ちに目を向け、特に作業療法士が直面する高齢社会や少子社会など様々な社会問題に目を向けて、その構造や原因を考えて、改善の糸口を見つけたり自身と社会との関りについて考える機会とする	1前	15	2	○			○			○	
5	○			人間工学	病床環境の快適性の追求、早期社会復帰のための施設・設備の検討、作業環境や安全性について様々な知識を学ぶ。また問題意識を持つと共にその解決方法を考える力を養う	1前	15	2	○			○		○		
6	○			コミュニケーション論演習Ⅰ	臨床で働くまでに必ず身に付けるべきコミュニケーションスキルや社会人としてのマナーなどを修得する	1前	30	1		○		○		○		
7	○			コミュニケーション論演習Ⅱ	グループ学習を通して、医療人のあり方や作業療法の役割・知識や技術について理解を深めとともに個人の課題を見つけていく	2前	30	1		○		○		○		
8	○			健康科学	健康の維持・増進のために知っておくべき知識をさまざまな視点で学ぶ。健康体操の指導ができるようにする	1前	30	1	○			○		○		
9	○			英語	医学英語・リハビリテーション基礎英語を学習し、医学英語・リハビリテーション基礎英語の適切な使用方法について学ぶ	1後	15	2	○			○			○	

10	○		上肢解剖運動学Ⅰ	人体の正常な構造を理解するために解剖学的な知識を学ぶ。特に骨や筋、神経の総論と運動学に必要な知識を学ぶ	1 前	30	1	○			○	○		
11	○		上肢解剖運動学Ⅱ	人体の構造や器官の名称を正確に学び、機能解剖の観点から関節運動のバイオメカニクスの理解を深める。特に上肢の関節や運動学について学ぶ	1 前	30	1	○			○	○		
12	○		下肢体幹解剖運動学	下肢の骨や筋肉を学び、関節の運動学を理解する。また、姿勢や歩行などについても解剖学的視点と運動学視点を踏まえて講義を行う	1 前	30	1	○			○	○		
13	○		解剖運動学演習	解剖学での知識に触診という技術をあわせて体表面上から身体を観察する力を養う	1 後	30	1		○		○	○		
14	○		内臓学	内臓学では、循環器系や呼吸器系など内臓の構造と生理について学ぶ	1 前	30	1	○			○	○		
15	○		解剖学実習	人体を構成する器官は、立体的に体格を構築すると共に、体腔内に立体的に納まっている。立体的な認識を得るためには、丁寧な予習に裏付けられた知識と実習室における系統的な観察が重要であり、構造と機能の相関理解に努めることで目的は達成できる。同時に篤志献体された方々のご厚意に触れ、医療人としてあるべき姿を心に刻む	1 後	30	1			○	○	○		○
16	○		運動生理学Ⅰ	動物に特徴的とみなされる生体の高次機能について理解する	1 前	30	1	○			○	○		
17	○		運動生理学Ⅱ	運動と体温調節、運動と栄養など「運動」が身体に及ぼす影響について学ぶ。また、疾病予防やＱＯＬ（生活の質、人生の質）の向上につなげるための知見を習得する	1 後	30	1	○			○	○		
18	○		運動生理学Ⅲ	内分泌、消化吸収、代謝、排泄などの個々の機能と役割を理解し、運動生理学Ⅰ・Ⅱで学んだ機能と共に、生命現象は各機能が協調して維持されていることを理解する	1 後	30	1	○			○	○		
19	○		運動生理学演習	運動生理学Ⅰ～Ⅲで学んだことを演習にて経験し、生命現象は各機能が協調して維持されていることを理解する	1 後	30	1		○		○	○		
20	○		人間発達学	胎児期から老年期に至るまでの、身体的な成長・発達および精神的な発達とその特徴を理解し、発達、成長に関係する因子と発達理論および評価法の概略を学ぶ	1 前	15	2	○			○	○		
21	○		病理学	病理学とは何か？ ・ 人類の歴史で疾患の変遷を理解する ・ 主な疾患の病因を理解する	2 前	30	1	○			○	○		

22	○		臨床心理学	臨床心理分野の疾患とその治療法を理解し、自分たちの職種で出来る各疾患の治療法について学ぶ	1 後	30	1	○			○			○	
23	○		一般臨床医学 I	医学一般について幅広く知識を深めていく学問であり、救命救急医療をはじめ、外科など代表的な疾患の概要・症状・治療について習得する	1 後	15	2	○			○		○		
24	○		一般臨床医学 II	栄養に関する知識は作業療法を展開する上でとても重要であり、薬物に関する知識も同様である。それぞれの知識を習得するとともに作業療法との関連性のポイントを学ぶ	1 後	15	2	○			○		○		
25	○		内科学	リハビリテーション（作業療法）に関係深い内科系疾患について、疾患概念や病態および治療法について基本的な知識を習得する	1 後	30	1	○			○		○		
26	○		整形外科学 I	骨・関節の損傷修復過程を理解し、運動器の整形外科の診療と治療の流れを学ぶ 各論として上肢疾患、足関節疾患、股関節疾患、体幹の疾患、軟部組織・骨・関節感染症について学ぶ	1 後	30	1	○			○		○		
27	○		整形外科学 II	リウマチ、肩関節、肘関節、手関節、末梢神経損傷、スポーツ損傷、代謝性骨疾患、骨腫瘍、先天異常症候群、脊椎・脊髄疾患など、リハビリテーションに役立つ整形外科知識について学ぶ	2 前	30	1	○			○		○		
28	○		神経病学 I	神経系の働きなどの基本的な医学知識に基づき、神経内科に関する各疾患の病因、臨床症状、治療について学ぶ	1 後	30	1	○			○		○		
29	○		神経病学 II	脳・神経の構造や生理およびその病態と検査法や治療法について理解を深めるとともに脳神経分野における代表的な疾患に対する知識を習得する	2 前	30	1	○			○		○		
30	○		精神医学	精神医学の基礎について学び、統合失調症や気分障害など各疾患の症状と治療について学び、作業療法業務に役立てる	1 後	30	1	○			○		○		
31	○		健康管理学	健康の概念を理解し、健康に影響を与える要因を考える。作業療法士が対象者の健康増進、疾病の予防に関わる必要性を学ぶ	1 後	30	1	○			○		○		
32	○		老年学	身体面・精神面・社会面・生活面の観点から高齢者の理解を深め、老化にともなって生じる障害や病態について学び、高齢障害者に対する作業療法士の役割を考える	2 前	30	1	○			○		○		

33	○		リハビリテーション医学概論	リハビリテーションの歴史から代表的な対象疾病までを知り、リハビリテーション関連職種の説明を通して、理学療法・作業療法の専門的基礎知識を学ぶ	1 前	30	1	○			○			○	
34	○		保健医療福祉連携論	各領域における機関の役割と領域間での連携および地域包括ケアシステムについて学ぶ	2 前	30	1	○			○			○	
35	○		地域・国際コミュニティ論	コミュニティセンターの活動を担当者から話を聞いたり、各国のOTの状況等について調べ、地域や世界におけるOTの活躍を考える	2 前	15	2	○			○		○		○
36	○		作業療法概論Ⅰ	作業療法の歴史・原理・対象者・目的・活動分野・手段を学ぶとともに作業療法の職務を学ぶ	1 前	30	1	○			○		○		
37	○		作業療法理論	作業療法の歴史・理論の概要、作業科学、人間作業モデル等について学ぶ	2 後	30	1	○			○		○		
38	○		基礎作業学	作業に関する基礎理論と分析を学び、具体的な作業活動を通じて、その指導方法を学ぶ	1 後	30	1	○			○		○		
39	○		基礎作業学実習Ⅰ	陶芸やタイルモザイクなどの作業活動の手順、道具の使用や管理方法など、実習を通して基本的な知識と技術を学ぶ	2 前	30	1			○	○		○		
40	○		基礎作業学実習Ⅱ	木工作業、革細工など作業活動を通じて身体面・精神面・社会面・生活面の関係性を学ぶ	2 後	30	1			○	○		○		
41	○		作業療法管理学Ⅰ	作業療法業務に必要な物品管理・スケジュール管理・診療報酬・関係法規について学ぶ	2 前	30	1	○			○		○		
42	○		作業療法管理学Ⅱ	作業療法士に求められる職業倫理および作業療法の研究法について学ぶ	2 後	30	1	○			○		○		
43	○		作業療法評価学概論	作業療法の中で行われる評価の目的や、流れの中で評価の位置づけを理解する。評価の手段である面接、観察と意識障害やバイタル測定の評価の概要を理解する。また、関節可動域測定の方法や目的を理解し、測定の実技を習得する	1 後	30	1	○			○		○		
44	○		運動器作業療法評価学	筋力、上肢機能などの検査・測定について学習し、ICFからの問題点を抽出し、目標設定ができるようにする	2 前	30	1			○	○		○		
45	○		神経筋作業療法評価学	筋緊張、反射などの検査・測定について学習し、ICFからの問題点を抽出し、目標設定ができるようにする	2 前	30	1			○	○		○		

46	○		作業療法評価学演習Ⅰ	脳神経検査、片麻痺の回復段階、小脳機能検査などの検査方法や目的および得られた結果の解釈法を学ぶ	2後	30	1		○		○		○		
47	○		作業療法評価学演習Ⅱ	各障害に対する評価項目を列挙して検査測定を行い、得られた結果より統合と解釈ならびに目標設定と問題解決のためのプログラム立案を学ぶ	2後	30	1		○		○		○		
48	○		中枢神経疾患作業療法学Ⅰ	脳血管障害や高次脳機能障害など中枢神経疾患対象者の、急性期・回復期・生活期における関わりを学ぶ	2前	30	1	○			○		○		
49	○		中枢神経疾患作業療法学Ⅱ	脊髄損傷や神経難病など中枢神経疾患対象者の、急性期・回復期・生活期における関わりを学ぶ	2後	30	1	○			○		○		
50	○		運動器疾患作業療法学Ⅰ	腕神経叢損傷、骨折、疼痛、腱損傷対象者の作業療法について学ぶ	2前	30	1	○			○		○		
51	○		運動器疾患作業療法学Ⅱ	ハンドセラピー、リウマチ、末梢神経損傷、熱傷の作業療法について学ぶ	2後	30	1	○			○			○	
52	○		内部疾患作業療法学	循環器疾患、呼吸器疾患、代謝疾患の作業療法について学ぶ	2前	30	1	○			○		○		
53	○		発達障害作業療法学Ⅰ	発達障害を捉える基礎とし、多方向から小児の正常発達について学ぶ	2前	30	1	○			○		○		
54	○		発達障害作業療法学Ⅱ	発達障害作業療法学Ⅰで学んだ正常発達を基盤とし、疾患別の心身機能・構造をとらえ、評価及びアプローチを理解する	2後	30	1	○			○			○	
55	○		精神障害作業療法学概論	精神障害のリハビリテーションの流れを理解し、精神障害作業療法の構造と形態および作業療法の目的と役割を学ぶ	1後	30	1	○			○			○	
56	○		精神障害作業療法学Ⅰ	精神障害の対応・治療の基本を学び、臨床への応用の学びを深める	2前	30	1	○			○		○		
57	○		精神障害作業療法学Ⅱ	統合失調症や気分障害など各精神障害に対する作業療法の目的とその方法について学ぶ	2後	30	1	○			○			○	
58	○		高齢期作業療法学	高齢者の特徴や環境、高齢障害者に対する作業療法を考えていく	2後	30	1	○			○		○		
59	○		生活行為学Ⅰ	生活行為に関係する人―作業―環境の理解を深め、生活行為に求められる評価を評価学と関連付けて学ぶ	1後	30	1	○			○		○		

60	○		生活行為学Ⅱ	生活行為におけるアプローチポイントを身のまわり動作、家事動作を中心に学ぶ	2前	30	1	○			○		○		
61	○		生活行為向上マネジメント学	対象者の生活行為の向上のために、決められた「各シート」をプロセスに沿って使用される。そのシートの使い方を学び生活行為向上を支援できるようにする	2後	30	1	○			○		○		
62	○		義肢学	切断総論、下肢切断と義足、上肢切断と前腕義手、上腕義手、電動義手とその訓練法を学ぶ	2前	30	1	○			○		○		
63	○		装具学実習	装具総論、上肢装具、下肢装具の適応疾患の知識と装具療法について学ぶ スプリントの製作を通して実際に学ぶ	2後	30	2	○		○	○		○		
64	○		作業療法総合論	今まで学んだ基礎分野、専門基礎分野および専門分野の知識と臨床実習で経験したことを総合的に捉え、国家試験合格につなげる	3後	30	2	○			○		○		
65	○		住環境整備論	障害者・高齢者を取りまく住環境改善について現状の問題点を把握し、問題解決法を学ぶ	2後	30	1	○			○		○		
66	○		地域作業療法学	地域社会での保健・医療・福祉について理解し、作業療法を必要としている人に、よりよい作業療法を提供できる知識と技術を学ぶ	2後	30	1	○			○		○		
67	○		福祉用具学	福祉用具の定義と介護保険の福祉用具貸与・購入（制度）および排泄関連用具・入浴関連用具など各種福祉用具の特徴と適応などについて学ぶ	2後	30	1	○			○			○	
68	○		就労支援技術論	人の社会生活の中の職業への取り組みの共通認識を持ち、職業に関する作業療法の流れと技術を学ぶ	2後	30	1	○			○		○		
69	○		見学実習Ⅰ	臨床現場の中で対象者への問診、血圧測定など評価体験を通じて、専門家としての適切な振る舞いや対応、実践的コミュニケーション能力を習得する	1前	45	1			○		○			○
70	○		見学実習Ⅱ	通所リハビリ施設または訪問リハビリ施設にて、対象者への問診、評価体験等を通じて、専門家としての適切な振る舞いや対応、実践的コミュニケーション能力を習得し、作業療法士としてのあるべき姿を感じ、模倣、実践、振り返りの中でその修得方法を学ぶ	1後	45	1			○		○			○
71	○		評価実習	対象者の心身諸機能・日常生活活動等の生活面・対人交流等の社会面を把握する評価の実施及び作業療法士の役割と機能を部分的に実践する。評価目的の把握や、各検査項目を確実にこなすなど、基礎的な作業療法評価を確実に行うことが目的である	2後	45	3			○		○			○

72	○			総合臨床実習 I	当校で学習した知識と技術・技能および態度を臨床における作業療法体験により統合する課程である。学生は臨床実習指導者の指導のもとに、対象者の全体像の把握、作業療法計画、治療・指導・援助などを通して、作業療法士としての知識と技術・技能および態度を身に付け、保健・医療・福祉に関わる専門職としての認識を高めることを目的とする なお、臨地実習期間の前後1週間は、学校でデモと報告書作成を行い、習熟度を高める	3 前	45	10			○		○			○
73	○			総合臨床実習 II	当校で学習した知識と技術・技能および態度を臨床における作業療法体験により統合する課程である。学生は臨床実習指導者の指導のもとに、対象者の全体像の把握、作業療法計画、治療・指導・援助などを通して、作業療法士としての知識と技術・技能および態度を身に付け、保健・医療・福祉に関わる専門職としての認識を高めることを目的とする なお、臨地実習期間の前後1週間は、学校でデモと報告書作成を行い、習熟度を高める	3 後	45	10			○		○			○
合計						73	科目	104 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 取得単位104単位以上		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 作業療法士養成校指定条件		1 学期の授業期間	16 週

（留意事項）

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。